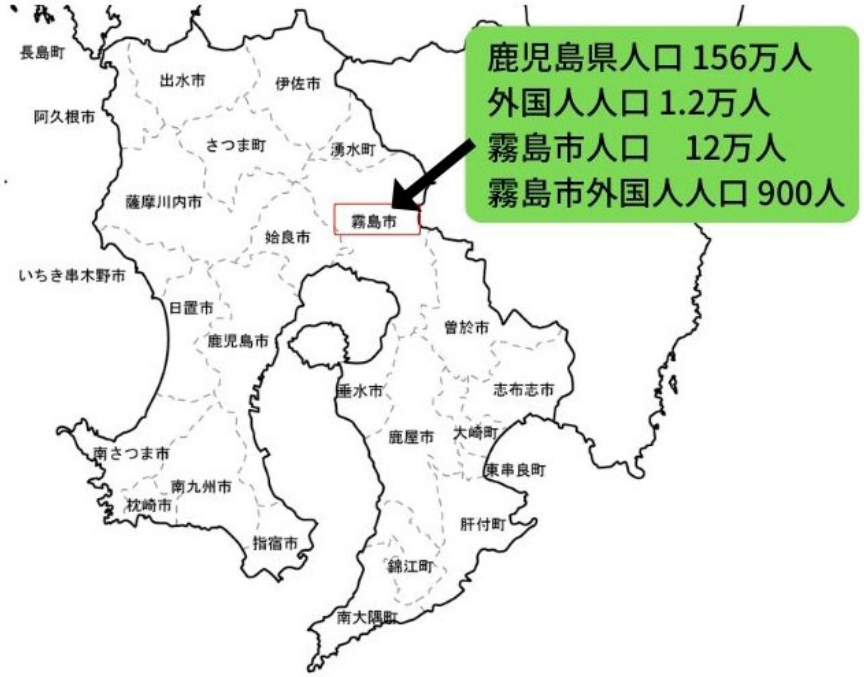
霧島市に地域日本語教育の拠点を作るために

きりしまにほんごきょうしつ　本田佐也佳

基本情報



鹿児島県では、鹿児島市（59万人）に次ぎ第２の都市

外国人の半数は技能実習生
農業従事者が多い

最近では介護分野での入国が増加

山間部も多く存在し、外国人を雇用している企業の把握が難しい

きりしま
にほんご
きょうしつ

2022年12月末

正会員　10名 ←設立時　６名
内訳
R3年度日本語サポーター養成講座受講者
（霧島市国際交流協会主催）
６名うち日本語教師１名

サポーター養成講座未受講者　４名
詳細
日本語をボランティアで教えている　2名
日本語教師資格保有・実戦経験無　１名
日本語教師養成講座受講予定者　1名

賛助会員・賛助企業
現在募集中

スタッフの中にも様々な事情が

・単身赴任で遠方に転勤
・家業の繁忙期は参加できない
・イベント時の受付ボランティアなら可

→基本すべてOK　参加できるときに参加できる方法で　無理なく息の長い活動に

GoogleドライブやLINEでミーティングの議事録を共有

子連れのミーティング参加も可

今後のスタッフに若い世代を
取り込みたいので、新しいスタイルの
活動形式に全員に慣れてもらう

ミーティングにもキッズスペース

どうしてこの活動をしているのかの共有

日本語をボランティアで教えているけど、他ではどうしているの？

地域の日本語教室がない！

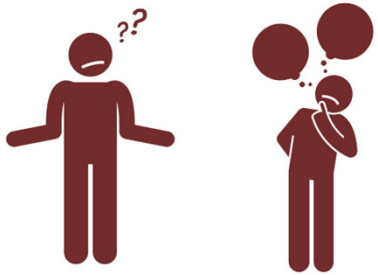
外国人と日本人が定期的かつ予約不要で交流する場がない！

技能実習生が増えたけど、彼らの日本語能力向上に何をしていいかわからない

地域日本語教育の空白地域に拠点を築きたい！

どんな場所にしたいのか？
- 外国人・日本人の居場所
- 日本語を学び・練習できる場
- 多文化共生について学び、共に考え、実践する場
- 地域で散在する日本語教育活動現場の情報総括の場

どんな人が参加すると想定？
- 在住外国人
- 外国人と交流したい地域住民
- 外国人を雇用している企業
- 日本語教育に関わりたい個人



日本語がうまくなりたい
日本語を勉強したい
日本人の友達がほしい
日本の文化を知りたい
居場所がほしい
同国の知り合いがほしい
仕事ばかりで楽しくない

外国人側のニーズ

年間活動の概要

5月28日　団体設立のための会議　設立時6名
定例ミーティング　合計11回実施（対面１０回・オンライン１回）
6月4日～10月１日
霧島市国際交流協会主催「外国人のための生活文化等講座」全５回
鎌田建設にて 日本語サポーターとして参加
9月 Facebook配信開始・公式LINE配信開始　日本人向け・外国人向け
10月 20日　第１回　カンバセーションナイト開催
11月 14日　FMきりしま　よいやんせ霧島出演
16日　第２回　カンバセーションナイト開催
12月 11日　第３回　カンバセーションナイト開催
15日　霧島市市民活動支援事業に申請
19日「外国人のための生活文化等講座」担当職員への
「やさしい日本語で外国人に説明するには」講座の実施
（市役所職員・ 消防局・警察署）

2022年12月末日　正会員10名　　公式LINE登録者数　76名

2023年1月から
定例ミーティング時に
・ケーススタディ
・やさしい日本語講習
を加えている

スタッフからの要望

スキルアップ

活動の不安を解消

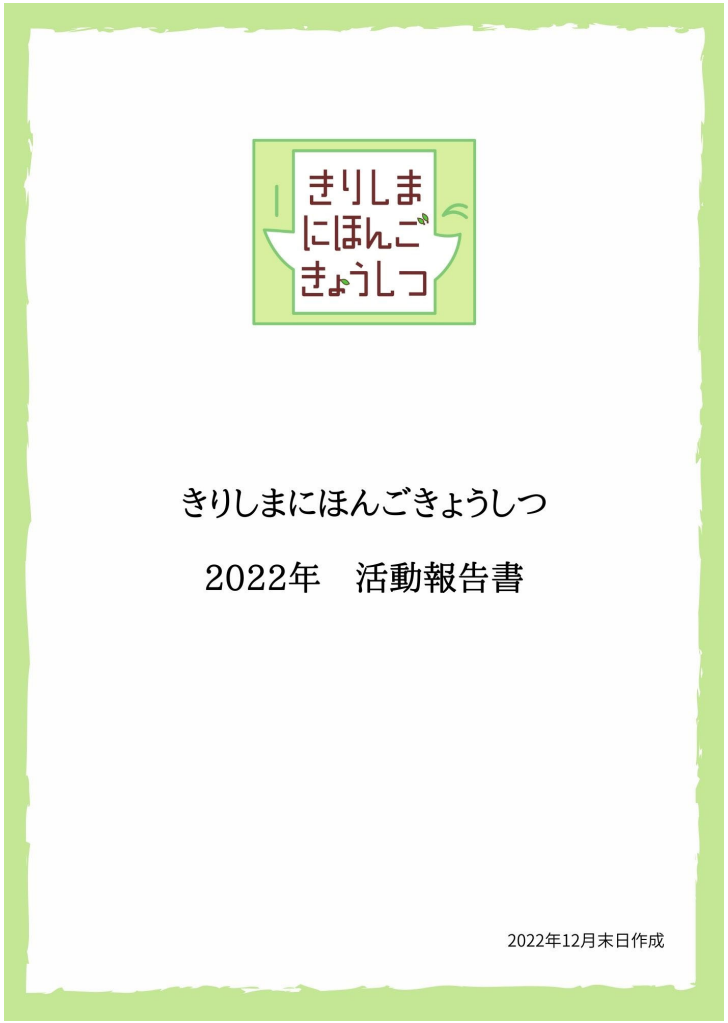
とても役立ったツール

2022年活動報告書
5月28日設立から12月末までの活動を
まとめたもの

広報・周知のツール

補助金・助成金申請の添付資料

スタッフに自分達の活動が社会的意義のあるものであると再認識してもらいモチベーションを上げる



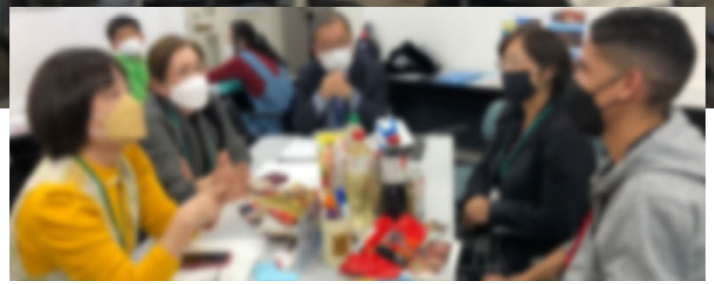
カンバセーションナイト

外国人と日本人の日本語での交流会

				新規・リピーター
第１回	10月20日（木）	18~20時	33名	22名
第２回	11月16日（水）	18~20時	16名	６名・３名
第３回	12月11日（日）	14~17時	41名	22名・8名
第４回	1月 26日（木）	18~20時	30名	15名・６名

広報の手段

チラシ・公式LINE・Facebook・クチコミ・FMきりしま



カンバセーションナイトの効果

① 日本人と外国人の活発な交流

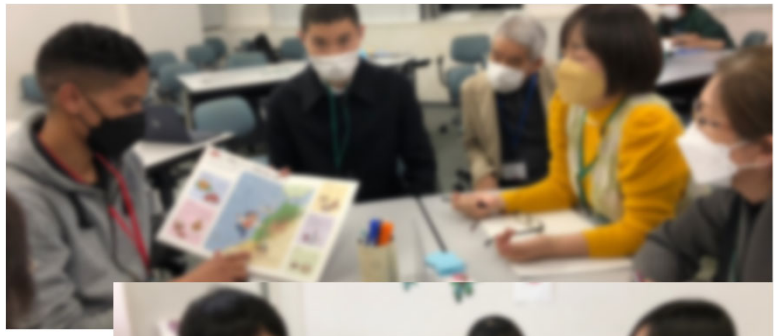
② 多文化を知る機会の創造

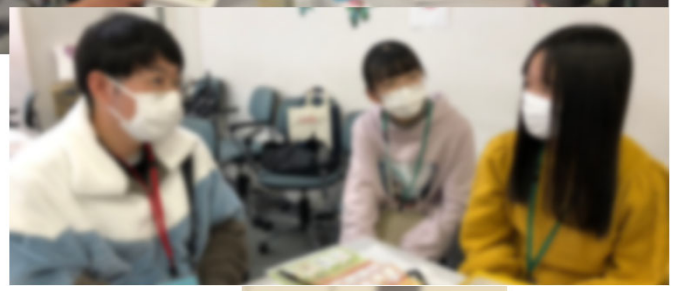
③ 外国人・日本人の意欲向上

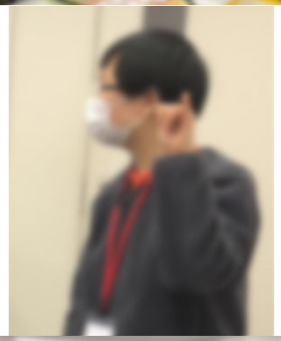
④ 外国人同士のつながりの構築

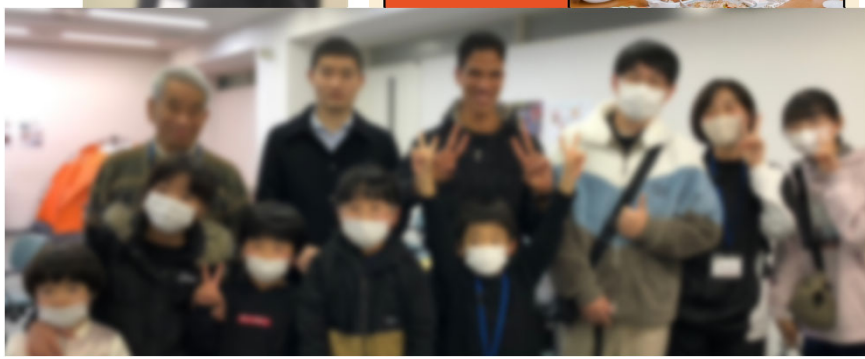
⑤ 世代を超えた関係性と居場所の構築

⑥ 外国人や外国にルーツのある子供達が抱える問題を知る機会







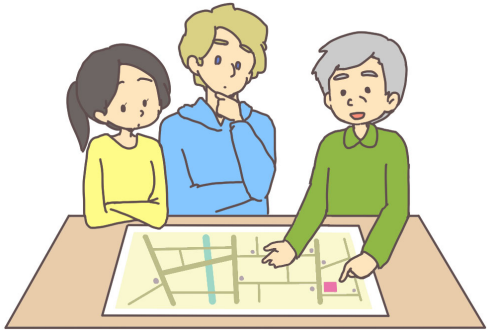


⑦　必要な情報の伝達・相談窓口

例

夏　熱中症・台風

冬　凍結・雪・寒さ対策



病院はどこに行けばいいか？

アルバイトを辞めたい。なんて説明すればいいか。

〇〇をしたいけれど、どうしたらいいか？

日本語をボランティアで教えているけれど、問題がある。

ケーススタディの例

通常の場面で外国人が陥るケース

なんて言ったらいいかな？
まず、これとこれとこれと…

会話はどんどん進む

言いたいことはあったけど
何も言えなかった

カンバセーションナイトの強み

なんて言ったらいいかな？
まず、これとこれとこれと…

全員の傾聴の姿勢
「慌てなくていいよ」
「ゆっくりでいいよ」
「まちがってもいいよ」

安心して話せた　感情の安定

言いたいことが自分で表現できた　自信UP!

みんなとまた話したい　動機付け

スタッフの役割

① 聞く姿勢を持つ → 参加者にもそれが伝わるように

② 間違いの訂正よりも、表現したいことを一緒に探す
友達は私達の会話を訂正する？
×「そんな言い方しないよ」「その日本語は変だよ」
○「それってこういうこと？」「こう言いたいのかな？」

ミステイク ・ エラー
ローカルエラー グローバルエラー

③ みんなの発話を引き出す →自分がメインで話さない
☆会話を独り占めする人への対処は？
☆「日本語を話す場」と強調している理由は？

④ 日本語での会話の自然なやりとりを体験してもらう
☆あいづち
☆距離感
☆ターンテイキング

カンバセーションナイトで起きた事案

①　自己紹介の繰り返しはやめたほうがいいんじゃないか（スタッフから）

→会話を何度もしたり、他の人のを聞く中でどんどん自然な自己紹介ができてきている

普段のケースを考えるのではなく、この部屋を出た後に「自分できること」「自信を持ってできること」を１つでも増やしてもらうことを意識して

②　英語や中国語を話す場だと思って来る人がいる

→日本語サポーターのファシリテーションにかかっているが、ここは日本語での会話をする場であると日本語を貫く姿勢も必要

専門家ではないので、媒介後を使うのはOK　でも終始それを使わないように

③　禁止事項の話を持ち込んだ時の対応　→差別・政治・宗教・マルチは禁止

② 地域で日本語をボランティアで教えてる人達からの相談

・ボランティア不足・高齢化
・JLPT対策以外の授業でボランティアの技能に
　頼らない教材・内容
・ICTに対応できないボランティアのための教材
・教授法の基礎がわからない
・日本語サポーター養成講座を早く実施してほしい

技能実習生の環境改善のために外部の視線や介入が必要

③ 他の地域の取り組みへの見学依頼

宮崎県都城国際交流協会
コロナの影響で2月下旬以以降

2/1 鹿児島県地域日本語教育ネットワーク会議に参加
・自治体職員
・日本語教室がある公立小学校の職員
・日本語学科のある私立中高一貫校の職員
・県の研修施設の職員
等々　グループワークで知り合った方々と情報交換
今後も相互に連携をとるように連絡を取り合っている

コーディネーターとして

それぞれに抱える問題を知り
先行事例やツールを紹介
（学び続けることの大切さ）

連携を図ることの重要性
（問題把握と予見ができる）

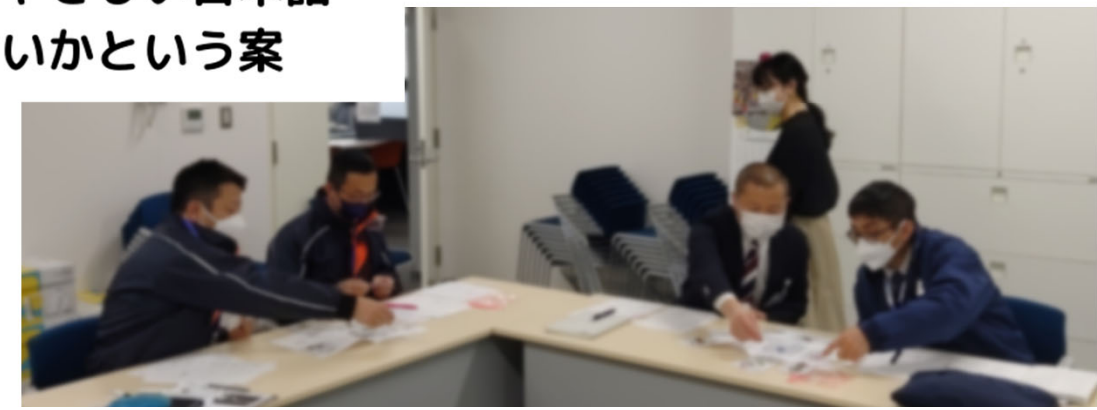
フットワークを軽く

④ 霧島市国際交流協会主催　外国人のための生活文化等講座
日本語サポーターとして参加

・連携機関との活動　打ち合わせに同行
技能実習生を雇用する企業と市協会・サポーターの日程調整がうまくいかず年内の開催は見送り。2023年3月以降に

・講師担当者に「やさしい日本語講座」を実施
「全然知らないことばかりだった」「講座をする前に聞いてよかった」という声と「講座の準備が大変だ」という声も
外国人対応に対する認識が少しでも広がってよかった

課題
外国人を雇用している企業の担当者向けの「やさしい日本語講座」を併せて実施したほうがいいのではないかという案

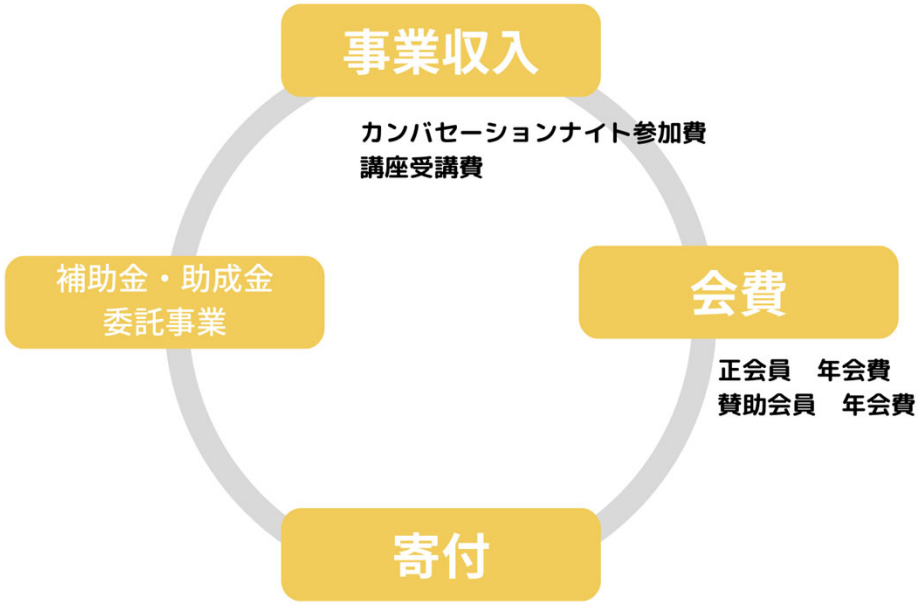


ゲームを体験してもらい、その効果を実感してもらう

⑤ 助成金申請（霧島市市民活動支援助成金・赤い羽根福祉基金）

活動の公益性のために高額の参加費や授業料を取れない
助成金や委託業務を得ることが必要
助成金申請により事業計画書や活動報告書などを作成し、
活動を振り返り、来年からの目標を考えるよい機会になった

霧島市民活動支援助成金　1月23日　一次審査通過
2月6日　二次プレゼン審査



企画の立案や説明・資料作成の鍛錬
プレゼンの難しさ・大切さ
率先垂範の実行

実直に活動を行うことで得られる協力者

実践できなかったこと

日本語サポーター養成講座の開講・実施

・場所と予算の確保が困難

→受講料をとる活動は公民館などが使用不可

　会場の確保と使用料だけでかなりの金額に

・他の活動との調整も難しかった（人手不足）

スタッフ内・他団体のボランティアからも

早く開催してほしいという意見が続出

場所代を考えると
オンライン開講を優先する？

スタッフにはミーティングを
利用して少しずつ講座の代わ
りになることを実施

助成金の目途を見て開講準備を進めていく

できるだけ早い段階で実施したいと考えている

地域日本語教育コーディネーターとして活動することとは何か

① 活動の場を設ける

② 広報・周知により認知の拡大を図る

③ スタッフやボランティアのスキルアップを行う

④ 関係機関と連携して、必要な支援について協議する

⑤ 新しい取り組みや類似の活動事例について情報収集を行う

⑥ 外国人やボランティアの相談を聞き、助言や今後の対応について意見を集約する

⑦ 活動資金を得るために、助成金や委託事業について検討し、申請する

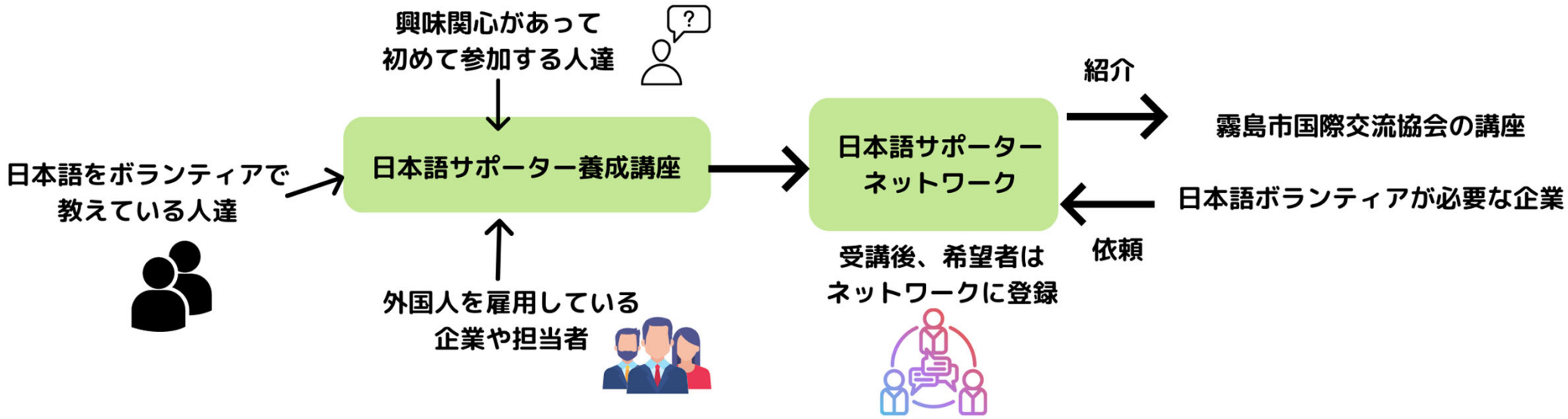
⑧ 活動を可視化し、ビジョンを明確にする

⑨ スタッフのモチベーションを維持するための取り組みの計画と継続

今後の活動予定と課題

①　日本語サポーター養成講座の開講
　→様々な世代に関わってもらえるように時間帯や週末を活用

②　日本語サポーターのネットワーク作り
　→　ネットワークをどのように作り活用するかが課題



③　日本語サポーター向け　ICT対応の講座や講習を実施
→オンライン対応はコロナだけではなく、山間部など中心部以外の地域の支援のためにも必要
スタッフの中にICTに対する抵抗感がある人も多い

④　定期的なカンバセーションナイトの開催
→　継続して参加したい外国人とその支援をしたい日本人が少しずつ増えてきている

⑤　窓口になる連絡先の確保やSNSなどの活用
→　電話はアクセスしやすいが固定費の捻出が課題
Facebookと公式LINEを今後どう活用するか

⑥　企業や外国人担当者・自治会などへの多文化共生ややさしい日本語の講習の提案と実施

⑦　外国人が活動に主体的に参加・企画・運営ができるような体制づくり

⑧地域日本語教育コーディネーターという存在の周知や受講を勧める

→自治体職員が理想と現実業務の狭間でかなり閉塞感や行き詰まりを感じていた

２～３年で別の部署にいくし…という本音も

自治体職員だけでなく、連携機関で専門的に携われる人に積極的にコーディネーターとして活躍できるようにしたらよいのでは

ご清聴ありがとうございました